

交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。

もう1人抜きたかったな



都道府県駅伝で第6区を走った
長岡 恵梨さん(17)
小神明町

一月十一日に京都市で開催された「全国都道府県対抗女子駅伝」県代表メンバーとして、第六区に出場。昨年十二月、女子全国高校駅伝に初出場した市立前橋のアンカーで走って以来、二度目の都大路となった。

「エントリは前日の夜に言われました。再び京都で走れることが、とてもうれしかったです。すぐに両親へも電話しました。でも、代表としての走りをしてはならないと、責任も感じましたね」

当日は雪もちらつく寒いコンディションの中、ほぼ目標のタイムで四区を走り抜いた。高校駅伝での七人抜きには及ばなかったが、二人抜いてチームの順位を上げる。しかし、自分自身で納得はしていない。

「ラストでもう一人抜きたかったんです。沿道から『群馬頑張れ』という声援が聞こえただけ

れど、粘りが足らなくて。それが残念でした」

小学生のころから走ることが好き。芳賀中で陸上部に入ってから本格的に競技へ取り組みようになる。現在高校二年。二月七日の大会と最後のシーズンに向けて、今は土日曜もなく、毎日、二時間以上練習に打ち込んでいる。

「個人での目標は中・長距離でインターハイ出場。そしてチームでは、二年連続で全国駅伝に出場を果たしたい」

小柄でしゃやな体格。冷たい空の風にも負けずに走る姿は頼もしく、すがすがしい。



生産者と語り

食を考える

下小出町一丁目・奈良啓子

農業生産者と消費者の交流を図る意見交換会に参加。県内の農業について、生産者からいろいろな話を聞くことができ、大変勉強になりました。また、ハクサイやダイコンなどの収穫も体験でき、その楽しさを実感。

農業への理解を深める良い機会となりました。

消費者に供給される農作物は抜き打ち検査まで行い、安全と品質に気を付けて栽培しているそうです。それに対し、わたしたちは川の水を汚すなど、農作物栽培に必要な自然環境を守るという意識が低いのではと感じました。生産者に対する感謝の気持ちを忘れず、日々の食生活が実り多くなるよう、消費者も努力しなければならぬと思います。地域で生産された農作物をその地域で消費する「地産地消」。この大切さを学び、食について真剣に考えた有意義な一日となりました。

まちのニュース



鳥取町

50年ぶりの どんど焼き



鳥取町で一月十八日、どんど焼きが行われました。今年五十年ぶりに復活。子どもからお年寄りまで二百人が参加しました。ほとんどの人が初めて体験するどんど焼き。積み上げたたるまや正月飾りが勢いよく燃え上がると、わあっと大きな歓声が上がります。その後、残り火でもちを焼いて食べ、無病息災を祈りました。

同町の松本千克自治会長は、「生涯学習活動の一環で、どんど焼きを再開しました。こつした行事を通して交流を盛んにし、地域の文化を親から子へ、子から孫へと引き継いでいきたいですね」と話していました。